

注目ポイント！

古い町並みや風情を特化させた観光戦略「遥かなまち倉吉」を展開。
赤瓦・あきない中心倉の住民主体の取り組みが交流人口を拡大する。
地域素材を活かした独自の観光商品が、新たな入り込みをつくる。

観光入込客数(土蔵群周辺)が約13万人(H9)から約30万人(H17)に！



昔ならではの風情が残る白壁・赤瓦

コラム

「白壁土蔵群・赤瓦」は、中心市街地と観光の中心地としての2つの顔を持つ「倉吉を象徴する特別なエリア」。倉吉市では、この地域の生活の香り漂う日常のありのままを観光素材として、活用している。

滝沢馬琴の「南総里見八犬伝」のモデルとなった安房里見氏終焉の地であることや、「淀屋橋の名を残す大阪の豪商淀屋」と倉吉の縁など、まだ世に出ていないが倉吉を舞台とした史実であり、倉吉が発祥の地。

今この歴史的史実を「歴史講談」を通じて全国に発信する観光商品化の開発を進めている。

これまでの経緯

- 昭和59年(1984) 「倉吉古い町並み保存会」により玉川沿いの土蔵の修復を始める。
- 平成9年(1997) 第三セクター方式のまちづくり会社「株式会社赤瓦」を設立。
- 平成10年(1998) (株)赤瓦により赤瓦1~3号館のオープン。白壁土蔵群周辺約4.7haが「国重要伝統的建造物群保存地区」に選定される。
- 平成11年(1999) 倉吉町並み環境整備基本構想に基づき、保存修理事業に着手する。
- 平成14年(2002) 打吹地区の商業者が「あきない中心倉」を発足。「福の神にあえる街倉吉で笑顔をお土産に」をコンセプトに、商店街に約40体の「福の神」を設置する。
- 平成17年(2005) 打吹公園のリニューアル事業等に着手する。
- 平成18年(2006) 赤瓦10号館(地元短期大学運営によるカフェ、観光案内所等)がオープンする。
- 倉吉らしい景観の拡大に向けた街並み環境保全に関する事業に着手する。
- コミック「遥かな町へ」と観光のコラボレーション「遥かなまちへ倉吉探訪ツアー」他、地域資源を活かした観光事業を開始する。

主な取り組み

白壁土蔵を有効活用する「赤瓦」

平成10年4月、地域資源の「白壁土蔵」を有効に活用・整備し、地域への集客を進め活性化を図ることを目的とした店舗「赤瓦1号館」がオープンした。ただ観るだけの場所に「食べる・買う・休む・体験する」等の機能を加え、滞留型の観光スポットに再生した。



周辺に直営店・協力店あわせて8店舗がそろ



街中に並べられた福の神をスタンプラリーで巡る

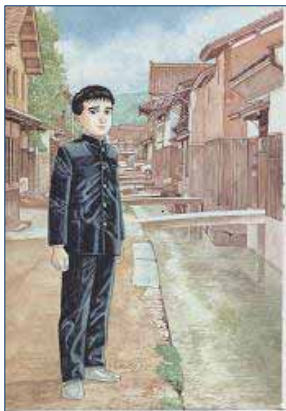
福の神にあえる街「あきない中心倉」

地域の歴史・伝統・文化を掘り起こし、地域資源として再生する打吹地区内の店主グループの取り組み。仏師という人的な地域資源と商業の融合により「福の神にあえる街」づくりを目指す。周辺に約40体の「福の神」と称する木像を設置し、「福の神スタンプラリー」を始め街角ギャラリー、食談会、お宝市等の独自企画を展開。

倉吉舞台の漫画と観光のコラボ

倉吉を舞台とした谷口ジロー氏コミック「遙かな町へ」と観光のコラボレーション「遙かなまちへ倉吉 探訪ツアー」を平成18年4月から実施。マップに落とし込んだ漫画のカット十数カ所を、実際の風景と見比べながら探し出す独自のまち歩きツアー。

昭和の色彩が残る古いアーケードや看板等、どこか懐かしさを感じる町並み散策が、全国の観光客・旅行者から反響を呼んでいる。



©「遙かな町へ」谷口ジロー / 小学館

倉吉らしい景観と歴史文化資源の活用

倉吉らしい伝統的な景観の保存・拡大にあわせ、街道沿いの歴史文化資源をまちづくりに活かすため、平成15年からカラー舗装や駐輪所等を整備。平成18年からは街並み環境保全整備を始め、倉吉らしい町並みの修景拡大にも取り組む。



白壁土蔵群周辺を巡るウォークイベント

問い合わせ先

倉吉市産業部商工観光課

Tel : 0858 - 22 - 8158 Fax : 0858 - 22 - 8136

倉吉観光案内所(赤瓦十号館内)

Tel・Fax : 0858 - 22 - 1200 <http://www.apionet.or.jp/kankou/>